

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200039		
法人名	社会福祉法人 聖マリア会		
事業所名	グループホームさざなみ	ユニット名	
所在地	長崎県五島市三井楽町濱ノ畔1046-1		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年1月31日	評価確定日	平成29年2月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人がこれまで培ってきた得意分野及び趣味などを継続させるために、リハビリも兼ねて積極的にお手伝いをして頂いている。各個人の自立度に合わせて自然に分担がなされている。また、昨年より、ぬり絵や貼り絵にも取り組んでいるがこれも続けており、新規入居者が入ったことを機に、さらに熱心な取り組みがみられる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームさざなみ”は「社会福祉法人 聖マリア会」が五島市から運営委託を受けている。28年4月に管理者とケアマネ(シスター)が変わり、故郷巡りやお墓参り、各地のドライブ等の外出を増やしてこられた。入居者の生活歴や得意な事を把握し、全員で魚釣りに行かれたり、「まんじゅう交流会」を企画し、保育園児などを招待して楽しいひと時を過ごされた。夏には三井楽の花火大会をベランダで楽しまれ、秋には家族から柿をもらい、干し柿作りを楽しまれた。ジョイフルでの外食にもお連れし、最初は少し緊張も見られたが、お好きなものを食べられた。日々の生活では朝の6時30分から洗濯物畳みを日課にされる方もおられ、他の方も拭き掃除や掃除機かけ等をして下さり、理念にある「ありがとう」の言葉が日常で聞かれている。系列施設の行事(花見・音楽会・敬老会等)にも参加し、馴染みの方と交流されている。29年4月から別法人の運営に変わるが、職員の一部は継続して勤務する予定であり、今後も変わらず入居者の笑顔を引き出す取り組みを続けていく予定である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、出勤者全員で唱和している。時々接遇とも合わせて取り入れている。	“1. 笑顔で挨拶 2. 喜びと感謝の言葉「ありがとう」 3. 思いやり「手伝う、助ける、励ます」の実践”を理念として掲げている。理念の中には「地域の方と・・・」と言う意味も込めており、地域交流を深めると共に、買い物の時や地域行事に参加した時などに、笑顔で挨拶を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や薬局に来られた方、近所の方等に気軽に立ち寄っていただくよう、はじめてまんじゅう交流会を催した。周知不足の為、病院帰りの人、近所の人の参加はなかったが、保育園児、近くの施設の利用者、家族等の参加で賑わった。	公民館行事(敬老会・ピアノ演奏等)や町内のひな祭りの見学に行かされている。保育園の運動会では、入居者も宝探しに参加されたり、散歩時に園児がホームに寄って下さり、入居者とハイタッチして下さる。「まんじゅう交流会」の企画も素晴らしく、保育園児も一緒に楽しむことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折、そうした声は上がっていたが、実行に移せていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の日常生活や行事での様子などが分かりやすいように、パワーポイントを使用し観て頂いたことで、今まで以上に入居者の生活の様子を理解されたと思う。	日々の暮らしぶりを写真で投影しており、入居者の方々の「笑顔がいい」「表情がいい」等の感想を頂いている。懇親会(新年会)には会議の参加者を含めて30人近く参加して下さり、五島にまつわる昔話で盛り上がり、入居者も一緒に食事を楽しまれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議のメンバーとして会議に参加して頂いており、事業所の実情等報告している。又、地域の診療所や調剤薬局との連携関係も良好でお互いに情報を交換し合いながら協力関係を保っている。	ホームは市の建物であり、毎月の事業報告書やホーム便りを持参している。1月の懇親会にも支所の方が参加して下さっている。「畳の部屋をフローリングへ」等の要望や、エアコンの交換等の要望も伝えており、市の方で検討して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は拘束は一切行わない方針になっており、リスクが予想される場合は研修会で学んだことを参考に、職員全体で拘束を行わない工夫を話し合っている。日中の施錠は行っていない。	身体拘束は行っていない。寄り添いケアの成果もあり、穏やかに過ごされている方が多い。入居者の方々は日々の役割を担って下さり、ご本人のペースで生活されている。「家族に会いたい」「お墓参りに行きたい」等の思いを理解し、願いを叶える取り組みを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者教室、研修報告で学ぶ機会を持ち、話し合って虐待防止に努めている。言葉使いや語調については月の目標設定をして悪いところを改めるよう努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に制度を利用されている方がいる。退所された方にも、本人の為にと利用できるようにした。自発的に研修に参加した職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分とは言えないが、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関する小さなことでも家族に相談したり、通院時、引率が出来るときはしていただいている。ケアプランの見直しの前後などは、意見を伺うようにしている。	3ヶ月毎のお便りやお手紙と共に、面会時に暮らしぶりを報告している。遠方の方等は月2回(1日と15日)電話で近況報告し、要望を伺っている。花見や音楽会、クリスマス、家族会等のホーム行事に家族をお誘いしており、家族会の奉仕活動では窓拭きをして下さっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者を通して伝えられる意見は、できるだけ検討し取り入れていくようにしている。利用者の状態に合わせて検討することも多く、本体施設との協力の中で実施していくこともある。	毎月の会議で、日々のケアに関する情報交換をしている。ドライブの場所や音楽会、レク等へのアイデアも多く、職員間で意見交換している。入居者第一の姿勢で日々の関わりを続けており、管理者(介護主任)とケアマネ(シスター)を中心に全職員で良きチームが作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みは出来るだけ要望を入れながら勤務を組み、交代なども柔軟に行って、やりがいを持てるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加はできるだけ工夫し、内部での研修、外部研修と力量を高める機会を設けている。本体施設での研修も交代で行い、常に新しいものを学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設での行事、研修、会合にも出席し学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族・関係者より情報を得て、生活状態を把握するように努めている。家族と連絡を取り、本人に会うことが出来る時は面談するようにしている。入所検討委員会を開く為に、年一回、入所申込書を再提出していただき現状を把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話聞き、困っている事や要望等を理解することで信頼を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員の意見書を参考にしながら、本人と家族の意見を聞き、必要としている支援を見極め、出来るだけの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒に干したり、出来る所の掃除を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の体力の低下で散歩は行っていない。誕生日の連絡はしなくなったが、家族が来て下さっている。身体のことを心配され、飲み物や副食などを持って来て下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行ってもらったり、又は馴染みの美容師に来てもらったりしている。白砂からも体操に参加されたり、面会に来られたりしている。	馴染みの美容院に家族がお連れしている。職員と一緒に墓参りに行かれたり、病院の待合室や公民館の行事で馴染みの方から声をかけて頂いている。系列施設の行事(ミサなど)で信者の方と交流されたり、漁師仲間や知人、神父様などがホームに来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で協力し合って洗濯物たたみをしたり、ホールで気の合う人同士、話しが盛り上げられていることもよく見られる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方は、機会ある時に面会に行き様子を伺っている。入院されている場合は、お見舞いに行っている。買い物等でご家族に会った時には様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や日常的に本人の話を聞いたりしながら、希望等を確認したり、生活を観察し、本人本位に検討するようにしている。困難な場合は、スタッフ会議等で話し合ったり、家族にも相談している。	日々の生活の中で、入居者の方々に「困っていること」「したいこと」「食べたいもの」等の要望を伺っている。真の想いを理解するように努めており、日々担って頂いている役割が負担になっておられないかの確認等も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人、家族、関係者より情報収集し把握に努めている。なつかしい環境(場所や人)に触れることが出来るように、外出の機会をもうけた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課は決まっていますが、一人ひとりの体調に合わせて取り組んでいる。また出来る手作業などを見つけ、目的をもって取り組んでいただいている。(TM氏・毛糸の帽子編み。TS氏・花を飾ってもらう。OK氏・苗を植えてもらう等。)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人には個別に話しが出来る機会を多く持つようにしている。また家族にも意見がいただけるよう雰囲気づくりに努めている。出来る限り介護計画作成に取り入れている。	ご本人や家族の意見を大切にされている。職員会議で日々のケア内容を情報共有し、計画作成担当者が計画を作成している。洗濯物たたみや新聞紙折り等、入居者個々の役割も盛り込まれている。ケアチェックは毎日行われ、担当者が毎月の評価を記入し、職員との意見交換をしている。	センター方式やケアチェック表等を活用しており、今後も更にアセスメント内容を膨らませていく予定である。行動の背景や理由、各活動の能力(できる事、できそうな事)、要望(やりがいや楽しみ等)、解決策等も追加していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録等のファイルを準備し、その日の出来事や身体状況の記録を行っている。ケアチェック表を準備し、ケアプラン内容が実施できているかをチェックし、計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズ(外泊・外出・買い物など)に応じて、出来る時は対応出来るようにしている。職員と一緒に病院・通院なども家族に引率していただいている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム便りを警察署や消防署、学校等に配布して現状を伝えている。公民館、近くの診療所、薬局との関わりも多く、交流の機会(まんじゅう交流会)が増え名前を憶えていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は必要時及び家族の希望に応じて行い、家族同行が必要な場合は協力を得ている。家族には受診の都度情報提供を行っている。	日々の健康管理に努め、朝の申し送り等で情報共有している。体調不良時は系列病院の担当医に指示を頂き、疾患に応じて医師同士の情報交換をして下さる。病状に応じて診察時に家族に同席して頂いたり、家族が通院介助をして下さる方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成28年4月より看護師の配置がなくなった為、病院受診と処方に関しては通院記録を作成し、受診時の状況を全スタッフがいつでも見れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行き、本人の精神安定を図っている。病院から適宜報告を受け速やかな退院支援に結び付けている。入院中も日常生活の様子を伝え、出来ることや介護の仕方など提供し、早期回復につながるよう協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、早い段階で家族と話し合いを行っている。出来るだけ長くここで過ごしたいと言われる方もいる。設備の関係上当事業所で対応が難しくなった場合には、適切な施設を紹介するという事で合意している。重要事項説明書にもこの件について説明を行っている。	看護師が勤務しておらず、「看取りケアはしていない事」「体調に応じて系列の特養を紹介できる事」等を家族に伝えている。センター方式も活用して終末期の意向確認をしており、「最期は病院で」「ぎりぎりまでここで」等の思いを伺っている。隣接する診療所の医師は往診も可能で、24時間体制で連絡できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命救急法等の実技や講習を年一回行っている。事故については、職員間で対策を考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は年数回行い、地域住民にも協力を得ている。母体の特養で行われる災害対策会議に参加し、災害に対する理解を深めるよう努めている。今年度は近くの診療所・薬局の職員に応援を依頼し避難を手伝ってもらった。	日々の火元点検に努めている。夜勤体制は2名にしており、系列施設とも連携体制が取られている。年3回程度、消防設備点検業者、系列施設の職員、診療所職員、薬局職員も一緒に昼夜想定訓練が行われ、28年2月と9月は消防署も一緒に訓練が行われた。災害に備えて水や食料、卓上ガスコンロ、薬リスト、救急箱、連絡簿等を準備している。	系列の特養の方で地震や風水害等のマニュアルを作成している。火災や自然災害に対する検討会議も開かれている。マリア会の運営は29年3月末までではあるが、グループホームでも活用できる災害対策をまとめていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体の特養で2ヶ月に1度、接遇委員会が行われ、ささなみも参加している、言葉遣いやケア全般にわたる目標を掲げ、実行した後での反省や、次の新しい目標についての報告をしている。	優しい職員ばかりが勤務している。極力、標準語を基本としながらも、“どうすっかな〜”等の方言も使い、優しい言葉遣いを心がけている。「遠くから話しかけるのではなく、近くに行って声かけする」等の配慮を続けると共に、個人情報の管理にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がこれからどのように生活していきたいか、本人の思いや要望を聞き、できるだけそれに応えるよう心がけている。お墓参りに行きたい要望があれば連れて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはある程度決められているが、本人の体調などにより負担を感じないよう自由な雰囲気作りに努めている。起床も無理に起こすことなく本人の意思を尊重している。食事も本人のペースに合わせてゆっくり摂ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る人には好きな服を選んでいただくようにしている。外出の際は、家族が持ってきて下さったものや本人が気に入った服を着ていただくようにしている。出来ない人は職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	元気な方が入所されたことで刺激を受け、米とぎ、野菜の皮むき、具材切りなご一緒にできることが多くなった。	3食共に美味しい料理が作られている。嵯峨ノ島から沢山のつわを頂き、つわの皮むき、豆のさやむき、キジネをおびく、おしぼり巻き等をして下さっている。誕生日等には、ご本人の好きな物(赤飯、刺身など)を準備しており、嚥下状況に応じて、ミキサー食等も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能が低下した入居者には、ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの見直しを行い、毎食後、義歯洗浄剤がいの声かけ見守りを行い、半介助したり、できない方は職員が実施している。夕食後には全員、義歯洗浄剤につけるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレでの排泄を基本とし、介助の必要な方もその方の排泄パターンを見ながらトイレ誘導を行っている。普通のパンツの方、パンツにパットを当てている方、失禁パンツの方、リハビリパンツの方と個々に合わせて排泄支援の取り組みを行っている。	介護者研修で排泄の勉強会が行われている。自立支援と共に、コスト意識も持つようにしている。全員の方が尿意便意があり、自主的にトイレに行かれており、必要に応じて声かけをしている。下着(パット)や失禁対策用パンツの方が多く、ご本人の“できる能力”を発揮して頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し水分補給に努めている。下剤はかかりつけ医と相談しながら常に調整を行っている。食事には野菜、果物、ヨーグルト等を取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きなテレビ番組が観れるように、入浴する順番を調整して入浴してもらっている。	入浴好きな方が多い。入浴時間や湯温等の要望に応じ、ゆっくり湯船に浸かれている。内庭を眺めながら「ここは、みいらく♪」等の替え歌も聞かれ、職員との会話も楽しんでいる。洗える部分は洗って頂いており、希望に応じて同性介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの好みの場所、過ごす時間帯もほぼできている。朝、起きれない方は無理に起こさず、起きた時に食事を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも誰でも見られるようにファイリングして置いている。薬の変更や新しい薬が出た時は日誌や通院記録ファイルに記入し、職員がいつでも見れるように机の上に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体状態に合わせ、出来る事をお願い感謝の言葉を伝えるようにしている。本人の欲しい物の購入ができるように支援している。日々の会話の中で、何をしたいか、何を食べたいか尋ねるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたお花見や散歩に出かけている。ときには手作りの弁当をもって行き皆で楽しく食べることもある。又、近くのスーパーに職員が買い物に行く時、一緒に行って本人の好きな物を買うこともある。お墓参りに行きたい要望があるときはお連れしている。	管理者が大型車を運転して下さり、外出の機会を増やしてこられた。貝津港で釣りを楽しむ事もでき、「また行きたい」等の感想が聞かれた。万葉公園の八重桜や季節の花見を楽しまれ、椿屋でおやつを買われたり、シーモールで洋服などの買い物をされている。福江で外食をしたり、故郷の島に船で行かれた方もおられる。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が小額を所持している方もいるが、自己管理できない方は事務所で管理している。本人の希望があるときは、ほしいものはいつでも購入できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時はいつでも電話できるように支援している。荷物が届くと電話かけたりされている。手紙のやり取りは今のところ見られない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節は日々の気温にそって行っている。季節感を感じてもらうため、野の草花を飾ったりしている。家族から季節の花を頂くこともよくあり、玄関や食堂のテーブルに飾って季節感を感じてもらっている。今年度はホールの窓の外にゴウヤを植えて、夏の暑い日差しを遮ったり、実った実を料理に使ったりした。	玄関のマリア像の横やリビングに季節の花を活けている。正月は門松も手作りし、季節を感じて頂いている。リビングでは体操やリハビリ等が行われ、畳の間では、入居者が洗濯物を畳んで下さり、雑巾で手すりなどの拭き掃除をして下さっている。家族が作られた動物の飾り物や外出の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にテレビ、ソファを置き、くつろげるようにしている。気の合った入居者同士で、くつろいだ話もされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に本人が使い慣れた物や好みの物を持って来るよう話している。寝具類も本人が使い慣れた物を使用し、生活しやすいように工夫している。又、花の好きな方に対しては、居室に出来るだけ花を切らさないようにしている。	介護用ベッドを利用しており、必要に応じてベッドの挙上等を行い、立ち上がりや車椅子の移乗が楽になられている。全室に大きめのテーブルや椅子が置かれ、自宅で使用していた筆筒や寝具などを持ち込まれている。宗教物(大切なマリア像)や家族の写真、植物なども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今のところ生活空間に慣れ親しんでおり、環境整備をする必要は感じていない。		